

倉吉ことばの会 第6回 講演会

倉吉方言の文末詞「ダン」の機能
—談話展開の観点から—

鳥取県立倉吉未来中心セミナールーム3
2019年3月17日（日）14:30から16:00まで

小矢野哲夫

概要

文末詞「ダン」は「するダン」「したダン」「しとるダン」のような形式で使われる。

「するダン」で聞き手に指示したり、「したダン」「しとるダン」で説明的に述べたりするといった働きがあるように思われる。

命題部分の主語の人称に制限があるのではないか、述語のテンス・アスペクトが談話の展開に関係するのではないか、といったことを考察してみたい。

文末詞の機能と発話の機能

- ▶ 文はどんなタイプであっても単独では存在しない。発話の場がある。
- ▶ 現前状況によって発話する。
- ▶ 相手の発話内容に応じて発話する。
- ▶ 独話、対話、会話などの発話状況に応じて文が生成され、展開する。

市役所から書類が届いたのだが、分からない箇所があって、どうしたらよいのか困っているとAから聞いてBが答える。

- ▶ B : そがなときは電話して聞くダン。
- ▶ (聞くんだよ。聞きなさい。聞くのがいい。)
- ▶ A : だけど、どこに掛けたらええか分からんに。
- ▶ B : 代表番号に掛けて用件を言ったらつないでもらえるで。
- ▶ A : それかあ、なら掛けてみるわ。

こんな言い方もできる。

- ▶ もっと右側を歩くダン。
- ▶ もっと大きな辞書で調べるダン。
- ▶ 箱の角で結ぶダン。
- ▶ 火であぶって曲げるダン。
- ▶ 火であぶったら曲がるダン。
- ▶ 真ん中のストッパーを外すダン。
- ▶ そうにいとすると外れるダン。
- ▶ こうにして汚れを落とすダン。
- ▶ そうにいとすると汚れが落ちるダン。
- ▶ 毎朝5時に鳴るダン。そっで大体目が覚めるダン。

発話の意味

- ▶ もっと右側を歩くダン。（二人称主体の動作を指示する）
- ▶ もっと大きな辞書で調べるダン。（二人称主体の動作を指示する）
- ▶ 箱の角で結ぶダン。（二人称主体の動作を指示する）
- ▶ 火であぶって曲げるダン。（二人称主体の動作を指示する）（（その結果、）曲がるダン。）（作用の結果の説明）
- ▶ （真ん中のストッパーを外すダン。）（二人称主体の動作を指示する）
- ▶ そうにいとすると外れるダン。（作用の結果の説明）
- ▶ こうにして汚れを落とすダン。（動作を示して説明する）
- ▶ そうにいとすると汚れが落ちるダン。（作用の結果の説明）
- ▶ 毎朝5時に鳴るダン。そっで大体目が覚めるダン。（習慣的な事態の説明）

動詞の意味的なタイプ

- ▶ 歩く 主体の意志的な動作（自動詞）
- ▶ 調べる 主体の意志的な動作（他動詞）
- ▶ 結ぶ 対象に対する主体の意志的な動作（他動詞）
- ▶ 曲げる 対象に対する主体の意志的な動作（対象変化他動詞）
- ▶ 曲がる 主体変化自動詞
- ▶ 外す 対象に対する主体の意志的な動作（対象変化他動詞）
- ▶ 外れる 主体変化自動詞
- ▶ 落とす 対象に対する主体の意志的な動作（対象変化他動詞）
- ▶ 落ちる 主体変化自動詞
- ▶ 鳴る 主体の無意志的な動作（自動詞）
- ▶ 覚める 主体変化動詞

動詞の非過去形＋だん

- ▶ 動作動詞（歩く、調べる、結ぶ、曲げる、外す、落とす等）の場合は**二人称主体に動作の実行を指示する**文として機能する。
- ▶ 変化動詞（曲がる、落ちる、外れる等）の場合は作用（曲げる、落とす、外す等）の**結果を説明する**文として機能する。
- ▶ **習慣的な事態の説明**の文として機能する場合は動詞の意味的なタイプ（動作動詞か変化動詞か、意志的か無意志的か）に関わらない。

市役所に電話したことを報告する。

- ▶ A : さっき電話したダン。
- ▶ B : なんだってえ？
- ▶ A : 直接窓口に来てほしいだって。

発話の意味

- ▶ そっで右側を歩いたダン。（先行事態への対応事態の説明）
- ▶ そっで大きな辞書で調べたダン。（先行事態への対応事態の説明）
- ▶ 箱の角で結んだダン。（先行事態への対応事態の説明）
- ▶ 火であぶって曲げたダン。（先行事態への対応事態の説明）
- ▶ そしたら曲がったダン。（先行事態への対応の結果の説明）
- ▶ ストッパーを外したダン。（先行事態への対応事態の説明）
- ▶ そしたら外れたダン。（先行事態への対応の結果の説明）
- ▶ こうにいして汚れを落としたダン。（先行事態への対応事態の説明）
- ▶ そしたら汚れが落ちたダン。（先行事態への対応の結果の説明）
- ▶ 毎朝5時に鳴ったダン。そっで大体目が覚めたダン。（過去の習慣的な事態の説明）

過去形の場合は動詞の意味的なタイプに関わらず対応事態や対応の結果の説明を表す

- ▶ 歩く 主体の意志的な動作（自動詞）
- ▶ 調べる 主体の意志的な動作（他動詞）
- ▶ 結ぶ 対象に対する主体の意志的な動作（他動詞）
- ▶ 曲げる 対象に対する主体の意志的な動作（対象変化他動詞）
- ▶ 曲がる 主体変化自動詞
- ▶ 外す 対象に対する主体の意志的な動作（対象変化他動詞）
- ▶ 外れる 主体変化自動詞
- ▶ 落とす 対象に対する主体の意志的な動作（対象変化他動詞）
- ▶ 落ちる 主体変化自動詞
- ▶ 覚める 主体変化動詞

動詞の過去形 + だん

- ▶ 基本的には過去の事態に対する対応事態の説明として機能する。
- ▶ 「だん」が付かない形の文は過去の事態を記述するものとして機能する。
- ▶ 右側を歩いた。（「そのとき、どうしたのか」という質問に対する回答）
- ▶ 危ないけえ右側を歩いた。（理由と事態の記述）
- ▶ 右側を歩いたダン。（「右側を歩いた理由を問われての回答」）
- ▶ だって、危ないけえ右側を歩いたダン。（理由と事態の事情説明）

現在の様子を尋ねる。

- ▶ A : 今、ちょっとええかえ？
- ▶ B : ええで。
- ▶ A : こないだ頼んだ案内状はどうなっとるかいなと思って。
- ▶ B : ああ、一応昨日作っただん。そっで、今校正しとるダン。(校正しているんだ)

- ▶ A : あいつ、なんで今日出てこんだらあか。
- ▶ B : こないだのことがあって品がわりいダン。(恥ずかしいんだ)

形式

- ▶ 動詞の非過去形 + ダン
- ▶ 動作動詞 コピーすっダン
- ▶ 変化動詞 落ちるダン
- ▶ 状態動詞 あっダン、違うダン、違っとるダン
- ▶ アスペクト動詞 しとるダン、しよるダン

形式と意味

- ▶ 状態動詞非過去形＋ダン あるダン、違うダン
- ▶ アスペクト動詞非過去形＋ダン したるダン、しよるダン
- ▶ 発話時の状態を説明する

- ▶ 動作動詞非過去形＋ダン コピーするダン
- ▶ 変化動詞の非過去形＋ダン 落ちるダン
- ▶ 発話時以後の動作を指示する
- ▶ 習慣的な動作を説明する 毎日コピーするダン

形式

- ▶ 動詞の過去形 + ダン
- ▶ 動作動詞 コピーしたダン
- ▶ 変化動詞 落ちたダン
- ▶ 状態動詞 あったダン、違ったダン、違っとなったダン
- ▶ アスペクト動詞 しとったダン、しよったダン

形式と意味

- ▶ 動詞の過去形 + ダン
- ▶ 動作動詞 コピーしたダン
- ▶ 変化動詞 落ちたダン
- ▶ 状態動詞 あったダン、違ったダン、違っとなったダン
- ▶ アスペクト動詞 したったダン、しよったダン
- ▶ 過去の事実を認め、先行する事態に対して理由説明などの関係づけをする。

形式

- ▶ 形容詞の非過去形 + ダン
- ▶ 広いダン、寒いダン、さびしいダン、静かなダン
- ▶ 名詞（非過去形） + ダン
- ▶ 休みダン

形式と意味

- ▶ 形容詞の非過去形 + ダン
- ▶ 広いダン、寒いダン、さびしいダン、静かなダン
- ▶ 発話時において「広いこと」「寒いこと」「さびしいこと」「静かであること」等を説明する。
- ▶ 名詞（非過去形） + ダン
- ▶ 休みダン
- ▶ 発話時または発話時以後において「休みであること」を説明する。

形式

- ▶ 形容詞の過去形＋ダン
- ▶ 広がったダン、寒かったダン、さびしかったダン、静かなだったダン
- ▶ 名詞の過去形＋ダン
- ▶ 休みだったダン

形式と意味

- ▶ 形容詞の過去形＋ダン
- ▶ 広がったダン、寒かったダン、さびしかったダン、静かなだったダン
- ▶ 名詞の過去形＋ダン
- ▶ 休みだったダン
- ▶ 過去の事態を説明する

ダとダガナ

- ▶ **ダの機能**：命題内容を説明的に述べる。
- ▶ 行くダ。（行くんだ。）
- ▶ 行ったダ（行ったんだ。）
- ▶ 寒いダ。（寒いんだ。）
- ▶ **ダガナの機能**：「行くダガナ。」（行くんだよ。）主語の人称を問わない。
- ▶ 「寒いダガナ。」「行ったダガナ。」命題内容が事実であるという見解を聞き手に伝達する。
- ▶ 「通知があったけ、行ったダガナ。」（「通知があったから行ったんだ」ということを言い訳のように言う）

ダとダン

- ▶ **ダの機能**：命題内容を説明的に述べる。
 - ▶ 行くダ。（行くんだ。）
 - ▶ 行ったダ（行ったんだ。）
 - ▶ 寒いダ。（寒いんだ。）
- ▶ **ダンの機能**：
 - ▶ 「行くダン。」（行くんだよ。行け。） 命題内容の実現を二人称主体（聞き手）に働きかける。
 - ▶ 「寒いダン。」 「行ったダン。」 命題内容が事実であるという見解を聞き手に伝達する。
 - ▶ 「通知があったけ、行ったダン。」（通知があったから行ったんだ。）
 - ▶ 命題内容を認めて先行する事態に対して理由説明などの関係づけをする。

命題内容が事実であるという見解を**二人称主体**（聞き手）に伝達する。状態性述語の非過去形の場合。

- ▶ 実は資料があっダン。（実は資料があるんだよ。）
- ▶ 人間にはなあ、やめれるもんやめれんもんがあっダン。（人間には、やめられるものと、やめられないものがあるんだよ）
- ▶ そこが違うダン。（そこが違うんだよ。）

命題内容の実現を**二人称主体**（聞き手）に働きかける。主体動作動詞の非過去形の場合。

- ▶ 会議に間に合うやあにコピーすっダン。
- ▶ さいの目に切っダン。
- ▶ 手順を示したり、聞き手が気づいていないことを指摘して働きかける（実行させる）

命題内容が事実であることを二人称主体（聞き手）聞き手に指摘する。変化動詞の非過去形の場合。

- ▶ 火であぶったら曲がるダン。
- ▶ そうにいとすると外れるダン。
- ▶ そうにいとすると汚れが落ちるダン。

談話展開の観点

- ▶ 独話の場合（複数の文が連続する）
- ▶ ①行ってみたら留守だったダン。②だけメモを置いて帰ってきた。
- ▶ ①おんなるっちいなったけ行ったダン。
②そしたらちょうど買い物に行きな
たみたいで、留守だったに。
- ▶ 文①だけでは成立しない。

談話展開の観点

- ▶ 会話の場合（複数の文が連続する）
- ▶ A：①行ってみなったか。
- ▶ B：②うん、行ってみただけど留守だったダン。③だけメモを置いて帰ってきた。
- ▶ A：①行ってみなったか。
- ▶ B：②うん、その時間ならおんなるっちいなったけ行ったダン。③そしたらちょうど買い物に行きなったみたいで、留守だったに。
- ▶ 文②はAの発話①を受けて成立する。